

人権意識豊かな子どもの育成

子どもの実態に合った手立ての探求

児童生徒指導研究会議

研修員 山内 浩正（川崎市立上丸子小学校）

橋谷 由紀（川崎市立坂戸小学校）

花形 晋（川崎市立金程中学校）

増淵 賢一（川崎市立宮崎中学校）

研修指導主事 江間 薫

主題設定の理由

川崎市では2001年4月に「川崎市子どもの権利に関する条例」（以下「子どもの権利条例」という。）を施行した。子どもへの指導はもちろん、教職員に向けても権利学習の指導資料を作成・配布したり、権利学習の研修を実施するなどして、子どもの権利に対する認識を深める取組を行ってきた。こうした様々な取組を推進してきた結果、子どもたちの人権意識の高まりは見られるようになってきているが、現在のところまだ表面的な理解にとどまっていることが多い。そのため「子どもの権利条例」をもとにしながら、条文そのものよりも、その内容が子どもたちの中に内面化されることを目指す授業実践の必要性が感じられた。

そこで本研究のテーマとして「人権意識豊かな子どもの育成」を設定し、自分の人権を大切に子どもたちの育成にとどまらず、自分だけでなく更に他者の人権も大切にしていこうという集団作りを目指した。また昨今の教育環境の変化から、真に学びを内面化させるにはまず子どもの実態を把握し、次にその実態に合わせて教師のとる手立てを決定していく姿勢が更に重要になってきている。そのため、サブテーマを「子どもの実態に合った手立ての探求」とした。「人権意識豊かな子ども」とは、人から信頼される経験を積むことで、自己を肯定的にとらえ、様々なことに自分の思いを表現しながら取り組むことができ、同時に他者を共感的に理解し、差別しない子どもと考えた。

研究の内容

1 研究の仮説

子どもの実態に合った権利学習を展開することで、子どもが権利を身近にとらえて人権意識を高めることができる。

という仮説を設定して研究を進めた。

2 研究の方法

（1）子どもの権利学習の事前・事後の調査を行うことで、子どもの実態を知る。

調査方法 昨年度本研究会議で作成したアンケートを使用。

調査対象 市内 A 小学校 5 年生 38 名 B 小学校 6 年生 35 名

市内 C 中学校 1 年生 36 名 D 中学校 3 年生 35 名

調査実施日 事前調査 2003 年 7 月 事後調査 2004 年 1 月

（2）権利学習を取り入れた単元構想を作成する。

（3）検証授業の実施 市内小学校 2 校、中学校 2 校において学級の実態に応じて実施する。

（4）事後調査

検証授業を行った学級に同じ設問の調査を実施し、権利に関する意識の変化を探る。

3 検証授業

(1) 小学校における授業実践と成果

5 学年 単元名「大切なわたし 大切なあなた」

指導計画（総合的な学習の時間で5時間扱い）

時	学 習 活 動
第1時 つかむ	身近にある人権にかかわる問題に気付く。 (本時)
第2時 ふれる	子どもの権利条例について知る。
第3時 さぐる	権利カードの内容を確認し、自分の生活と結びつけてとらえる。
第4時 深める	話し合ったことをまとめる。
第5時 生かす	クラスの人権宣言をつくる。

本時の目標と展開

- ・日常の中にある人権にかかわる問題に気づき、自分の問題として考える。
- ・自分の考えを述べるとともに、友達の意見を聞き入れながら話し合いを進める。

学 習 活 動	子 ども の 発 言 ・ つ ぶ や き
<p>アイスブレーキング</p> <p>「よく見てみよう(学校編)」(*1)を見て、感じたことをワークシートへ記入する。</p> <p>グループに分かれ、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして考えをより深める。</p> <p>全体の場で、話し合って分かったことや疑問に思ったことなどを発表し合う。</p> <p>活動を終えて、活動についての感想や気が付いたことなどを「ふりかえりシート」に記入する。</p>	<p>・誰かの上履きをかくしている。</p> <p>・トイレをのぞいている。</p> <p>・誰かの絵に落書きしている。</p> <p>・ひそひそと悪口を言っている。</p>
	<p>・自分では気がつかないことを友達は見つけていた。人によって気付くことが違う。</p>
	<p>・身近にやってることだけど、よく考えるといけないことだと思いました。</p> <p>・されたら嫌だということが分かりました。</p> <p>・自分はこういうことをしたことはないからというのではなく、された人の気持ちに注目しなくちゃいけないなあと思った。これからはいろいろな権利について調べてみたい。</p>
<p>(*1)参考文献 「人権・同和教育の実践のために」2003年度版</p>	

実践を終えて

子どもたちは自分の好きな友達には気を遣って優しくすることができるが、それ以外の友達には同じクラスであっても気持ちを分かってあげようとせず、自分たちの生活の中での人権にかかわる問題に、気付かないという実態があった。また、事前の調査でも、いじめはいじめられる人にも責任があると考えたり、自分に自信をもてなかつたりする子どもが半数近くいた。しかし、権利の学習を進める中で、人権意識が芽生え、相手の気持ちを理解しようとするようになってきた。事後の調査では、いじめられる人に責任があると考える子どもは数人に減少した。1時間の学習だけでは、子どもの変容を実感できないが、積み重ねていくことで少しずつ意識の変容を感じるようになった。人権については、単発の学習だけでなく、単元を組んで行うこと、学級だけではなく学年で取り組むこと、家庭にも働きかけていくことが大切だと感じている。

6学年 単元名「私の表現・私たちの表現」内コミュニケーション学習

指導計画（総合的な学習の時間で9時間扱い）

時	学 習 活 動	ねらい
第1時 4月	耳を働かそう	感覚の覚醒
第2時 6月	鏡になろう	表現・表出
第3時 9月	自分のいいところ 他の人のいいところ	自己肯定感
第4時 9月	ユニセフは募金するところ？「子どもの権利条約」と「川崎市子どもの権利条例」	子どもの権利
第5時 10月	信頼する人	信頼感
第6時 10月	「ブラインドウォーク（仮称）」	信頼感
第7時 11月	「天国への旅（仮称）」（本時）	信頼感
第8時 11月	権利の山を作りましょう	子どもの権利
第9時 1月	私にとって大切なもの	生き方

本時の目標と展開

- ・ 仲間を信頼する（仲間から支えられる）ということを経験する。
- ・ 仲間から信頼される（仲間を支える）ということについて考える。

学 習 活 動	子 ども の 発 言 ・ つ ぶ や き
<p>アイスブレイキング</p> <p>「天国への旅」のやり方を聞く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 8～9人のグループ。 2 横たわった1人を囲むように座る。 3 囲んだ人が、ゆっくり、静かに、体が水平に浮くまで持ち上げる。 4 ゆっくりおろしていく。 <p>全員が交替して、「天国への旅（仮称）」を経験する。</p> <p>本時の授業にタイトルをつける。</p> <p>感じたことをシートに書いて、発表し合う。</p>	<p>「空にいるようで楽しかった。」</p> <p>「みんなが落としたりしないと思っていたので、安心して楽しんだ。」</p> <p>「いやがっていたので、ゆっくり上げた。」</p> <p>「自分のこと、信頼しているのかなと思った。」</p> <p>「信頼とは相手を安心させること。」</p> <p>「信頼がなければ自分は持ち上げられない、信頼があるから持ち上げられる。」</p> <p>「信頼を深めるには時間がかかる。」</p> <p>「信頼すると成功することが多くなる。」</p> <p>「信頼されたい。」</p>

実践を終えて

子どもたちは相手の立場や考えをあまり理解しようとせず、自分の考えの正しさばかりを主張してトラブルを起こしてしまうことがある。相手との信頼関係を大切にするという姿勢の必要性を感じた。そこで本時では、信頼についての授業を特に身体を使って行った。第6時「ブラインドウォーク（仮称）」での言葉を中心に使った学習とは違った成果があった。その1つは全員がより参加しやすかったことである。もう1つは言葉中心の学習では、信頼されるためにはどうしたらよいのかということに関心が集まったが、身体を使った今回の授業では、信頼することの大切さについても子どもたちの中に気づきが生まれたことだ。

事前の意識調査から、信頼感と自己肯定感は必ずしも直結していないと思われた。確かに信頼し合うこと自体、人権意識の高まりをもたらすと思う。しかし、それは自己肯定感を高めるというアプローチだけでは必ずしも達成されないように感じた。他者とのかわり等、その他のアプローチも探っていく必要がある。これは今後の課題として残った。また、「子どもの実態に合った指導」と「検証授業」に向かうまでのクラスづくりの大切さが改めて重要であると感じた。

(2) 中学校における授業実践と成果

1学年 単元名「よりよい明日のために」

指導計画（特別活動で3時間扱い）

時	学 習 活 動	活 動 内 容
第1時 つかむ	「自分のよいところ 他の人のよいところ」(本時)	・自分も他の人も大事な存在であることを確かめる。
第2時 さぐる	「ちがいのちがい」	・お互いの考えや見方の違いを知ること で他の人の考えを認める。
第3時 深める	「私にとって大切なもの」	・自分の考えに自信をもち、思いを伝える ことでお互いの考えを大切にする。

本時の目標と展開

- ・自分のよいところや他の人のよいところを見つけ、お互いに伝え合うことにより自己肯定感が高まり、他の人を理解し、認める。
- ・自分や他の人のよいところを見つけることにより、和やかな人間関係をつくる。

学 習 活 動	子どもの発言・つぶやき
<p>アイスブレーキング 「エネルギーをつたえよう」(*1) ワークシート(*1)に自分のよいところを5つ書く。事前に考えたり家族などから聞いた りしたものでよい。 グループに分かれ、順に他の人のよいところ を伝え、グループの人から言われたよいところ を、ワークシートに記入していく。</p> <p>自分のよいところと、班で言われたよいところ を比べて感じたことなどを発表する。 本時の活動のふりかえり、他の人にほめられ てどのような気持ちがあったかをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(*1)参考文献 「人権・同和教育の 実践のために」2003年度版</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のいいところって何かな。 ・誰にでも挨拶できること。 ・部活動を休まない。 ・明るいところ。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりがあるところ。 ・字がきれいだよ。 ・責任感があると思う。 ・クラスを明るくしてくれる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・そんな風に見られてうれしかった。 ・自分のいいところに気が付いた。 ・実はみんなはよく思ってくれていた。 </div>

実践を終えて

事前の調査から子どもたちは自信をもって行動しているように見えるが、実際には自分自身に自信をもっている子どもは少なく、他者とのトラブルを避けるために常に周囲の目を気にしたり、距離を置いてしまう傾向にある。検証授業では自他を知る学習に、全員が真剣に参加できた。普段自分では気が付かないことや、自分では「欠点・嫌なところ」と感じている部分に、肯定的な意見がでたことで自己を見直す良い契機となった。実態に合った手立てを通して自己肯定感を高めていくことで人権意識が豊かになっていくことの確認ができたが、自己肯定感と人権意識を本質的な部分で結びつけるには、今まで以上に継続的な指導を行っていくことの必要性を改めて感じた。

3 学年 単元名「よりよい明日をめざして」

指導計画（特別活動で3時間扱い）

時	学 習 活 動	活 動 内 容
第1時 つかむ	「よく見てみよう（町作り編）」	・絵を見て、「いやだな」「変だな」と思うところに気付き、班内でお互いの意見を発表し合う。 ・班の代表意見を、各班が全体の場で発表し合う。
第2時 さぐる	「私にとって大切なもの」 （ダイヤモンドランキング） （本時）	・「私にとって大切なもの」と、「将来の進路にとって大切なこと」の各順位を各自が記入した後、班内で発表し合い、気付いたことを記入する。
第3時 深める	「君の夢は何？」 ミッヅのキャッチコピーを使って	・様々な仕事のもつ意味を考え、班内で話し合う。 ・様々な仕事についてキャッチコピーを作る。

本時の目標と展開

- ・友達大切なものを知ることにより、自分にとって大切なものを改めて考える。
- ・「将来の進路にとって大切なこと」についての話し合いを通して、自分の生き方を考える。

学 習 活 動	子どもの発言・つぶやき
○「私にとって大切なもの」(*1)をワークシート1に上から順に記入する。 ○グループの中で発表し合い、発表を聞いて気付いたことを記入する。 ○アイスブレーキング「誕生日チェーン」 ○「将来の進路にとって大切なこと」をワークシート2に上から順に記入する。 ○グループの中で発表し合い、発表を聞いて気付いたことを記入する。 ○ふりかえりをワークシートに記入する。	・各自が自分のランキングに自信を持ち、思いを伝えるようにする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">あれ～、自分のと違うなあ。</div> ・6人班を新たに4人班に作りかえる。 ・ワークシート1に記入した、自分の価値観を基にワークシート2について、グループ内でランキングする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">へえ、大切なものは人それぞれだね。</div>
(*1) 参考文献 「人権・同和教育の実践のために」2003年度版	

実践を終えて

検証授業では、「私にとって大切なもの」について学習した。自分の感じ方、考え方を素直に表現すること、そして、他者の「大切なもの（価値観）」をお互いに尊重し受け止めることにより、自己肯定感が高まっていくきっかけになることが、生徒のふりかえりの中からも見て取れた。

また、さし迫った進路の決定の時期に向けて、将来のことや進路の内容なども重ね合わせたこの学習活動の中で、学級の仲間と意見を交換し共感しながら、何を基準に将来の仕事に対する価値観を形成できるかについて考える契機になったと思う。進路学習と絡めたことで、生徒の反応もよかった。

事前の意識調査から、勉強以外の事に対し、やればできる力をもっているのに、自信をもていない(友達・親などから認められていない)生徒が半数程だったが、事後の調査では4分の1に減ったことは、学級内でお互いを認め合えたことの表れではないかと考える。学習に関しては、8割以上の生徒は自信がないと答えていたが、見てもらいたい気持ちや認めてもらいたい気持ちは強かった。

このような学習は、人権意識の向上へのきっかけになったが、日常的な子どもの実態に合った指導と、教師自らが生徒の個性を尊重する姿勢を常にもつことが大切だと改めて感じた。

研究のまとめ

1 研究から見えてきたこと

人権意識豊かな子どもを育成する指導の在り方として、参加・意見表明に視点を当て子どもの実態に合った権利学習の指導方法を探ってきた結果、次のような変容が見られた。

- ・今までに比べ自分の意見を大勢の前で言うことができたり、グループの中で自ら進んで発言したりすることができるようになるなど、参加・意見表明しやすい雰囲気を作ることができた。
- ・お互いの思いや考えを知り、相手から認められることで自己肯定感を高めることができた。
- ・権利学習を行うことで教師と子どもの中で話題を共有する機会が増え、学級の雰囲気も意見表明しやすい方向へ変化していった。
- ・小・中学校において共通の視点で授業を行うことで、両者の現状を知ることができ、発達段階等にに応じて、どのような手立てが必要かを考えることができた。また、小・中学校における継続的な指導の流れを考えることができ、新たな方向性を知り得ることができた。
- ・権利学習を行ったことで教師の人権に対する理解を深める契機となり、教師も子どもも人権の意識をもって人とのかかわり合いや接し方を考えることができるようになった。

また、子どもの実態にあった手立てを探る中で、その手立てを一単位の授業としてとらえるのではなく、帰りの会や学級活動などの場を通し、その積み重ねとしての手立てを考えることができたことも効果的であった。

2 今後の課題

権利学習を定着させていくためには、各学校の現状に即した、無理のない形から始めるとよい。

そして、どのような時間に位置付けていくか、どの時期に実施するかなど、年間指導計画や子どもたちの実態を考慮しながら権利学習を進めていくことが大切である。

参加型学習を取り入れた権利学習は、小・中学校を通して学校のみならず家庭にも働きかけて継続的に取り組んでいくことが望まれる。そのためには小・中学校の連携や、学校と家庭との連携についても考えていかなければならない。

日々子どもに対する適切な接し方が、人権意識を高めるための基本である。教員自ら人権意識の向上のために研修を積極的に行っていくことが望まれる。

本研究会議を進めるに当たり、ご指導、ご助言をいただきました先生方、そしてこの研究を支援してくださった研修員所属校の校長先生、並びに教職員の皆様に心から感謝申し上げます

【参考文献】

- 「川崎市子どもの権利に関する条例」 川崎市・川崎市教育委員会 2001年
「みんな輝いているかい」子どもの権利学習資料（小学生版） 川崎市人権尊重教育推進会議
「わたしもあなたも輝いて」子どもの権利学習資料（中学生・高校生版） 2003年度版
（*1）「人権・同和教育の実践のために」（小・中学校編） 神奈川県教育委員会 2003年度版
「子どもの権利学習を進めるための教育課程の編成」 川崎市総合教育センター 2003年

【指導助言者】

- 川崎市立小学校児童指導研究会長（川崎市立西菅小学校長） 安谷屋 健
川崎市立中学校教育研究会生徒指導部会長（川崎市立東橘中学校長） 前原 成文
川崎市教育委員会総務部人権・共生教育担当指導主事 田中真喜男